

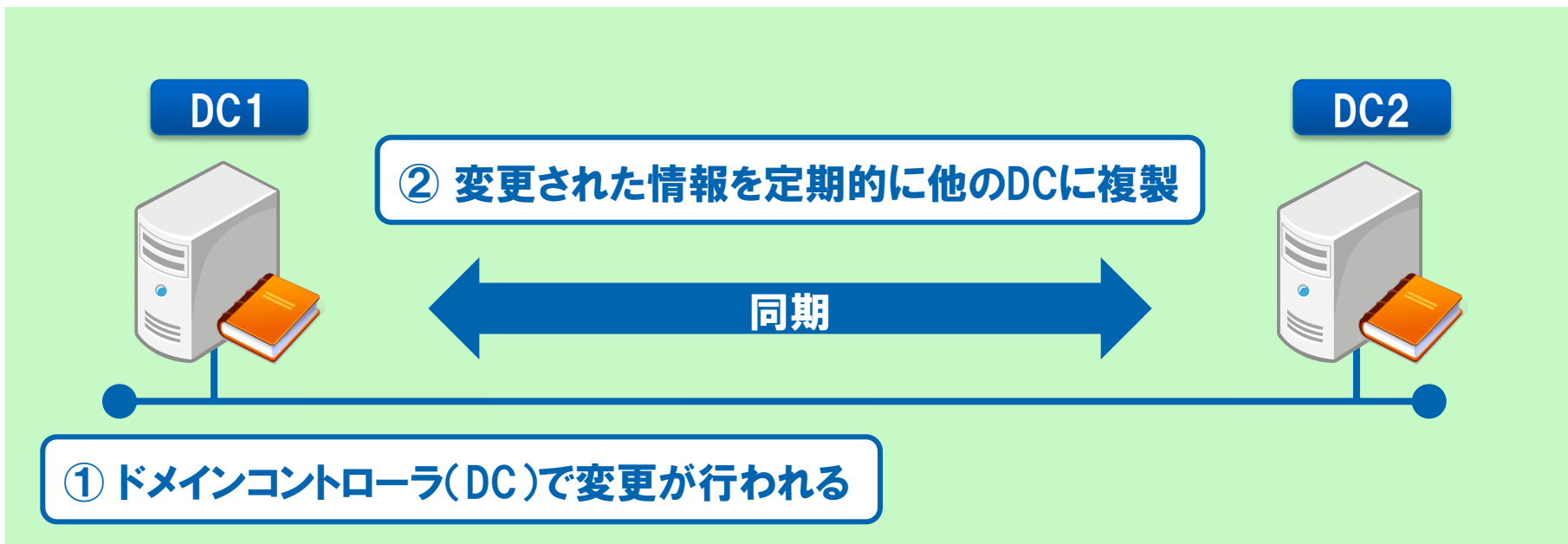
Active Directory環境の 復旧

Arcserve Japan

rev. 1.5

ドメインコントローラを冗長化していてもバックアップは必要です！

Active Directory データベースの複製の仕組み



Active Directoryデータベース上で誤った操作を行うと、他のドメインコントローラにもそれが反映されてしまう！

まずはDCの状態と復旧方法を確認

ドメインコントローラサーバが物理的に壊れてしまった！

- ▶ Arcserve D2Dのベアメタル復旧や、Arcserve Backupのディザスタリカバリ機能で、システム全体を復旧する。(⇒ Arcserve D2D/Arcserve Backupのオンラインデモをチェック)

<http://www.arcserve.com/jp/products/online-demo.aspx#d2d>

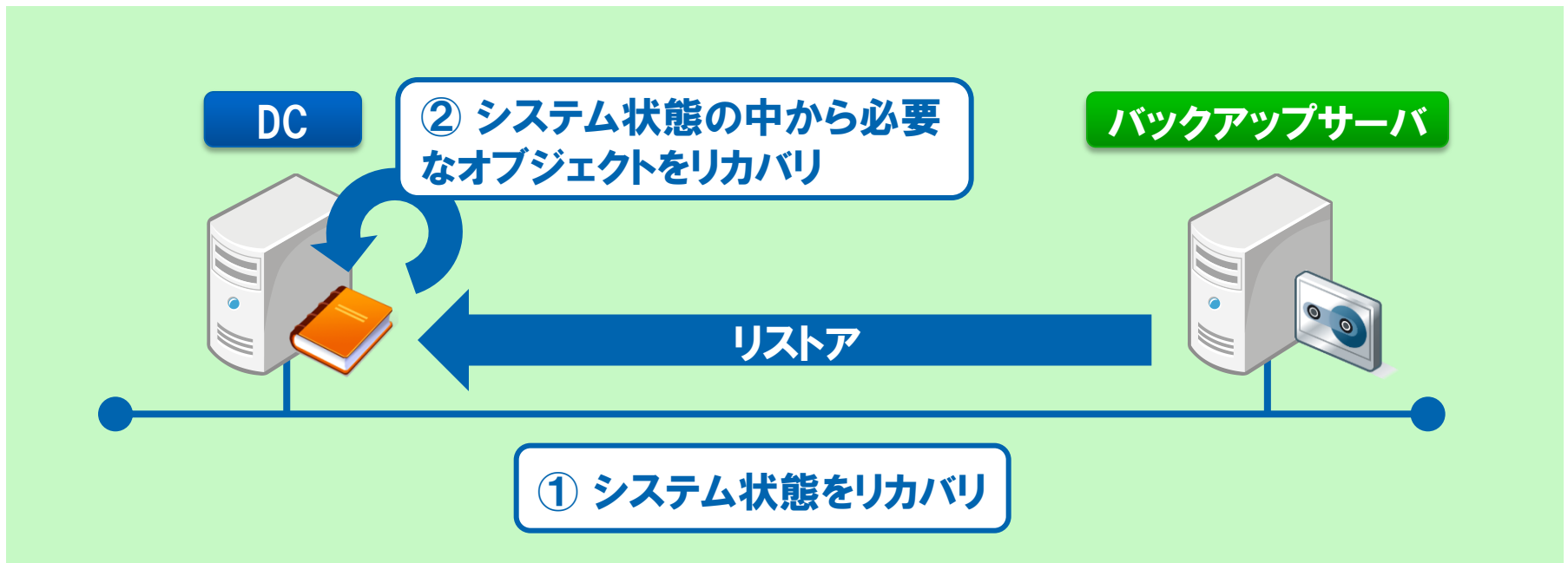
誤操作でActive Directory データベースを壊してしまった！

- ▶ 破損個所が特定できるのであれば、Arcserve Backupでオブジェクト単位でリストアを行う。(⇒ スライド4に進む)
- ▶ 破損個所が特定できなければ、Arcserve BackupでActive Directoryデータベース全体をリストア行う。(⇒スライド11に進む)

オブジェクトの一部を復旧する手順

誤操作でActive Directory データベースを壊してしまった！

- ▶ 破損個所が特定できるのであれば、Arcserve Backupでオブジェクト単位でリストアを行う。



オブジェクトの一部を復旧する手順 ①

CA ARCserve Backup - [リストア]

ファイル(F) クイック スタート(Q) 表示(V) リストア(R) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

AD1

ジョブ テープ DB

サブミット オプション フィルタ 表示

ソース デスティネーション スケジュール

ツリー単位 検索(E) 復旧ポイント(R): 2012/06/25 12/06/25 20:20 フル

コンピュータ名(N): 更新(U) リセット(S)

名前	種類	サイズ	最終更新日時
Active Directory		0 B	
Com+ クラス登録データベース		0 B	
SysVol		0 B	
ブートおよびシステム保護ファイル		0 B	
レジストリ		0 B	

システム状態

Step 1: リストアマネージャを開き、リストア対象のサーバの「システム状態」にチェックを入れます。

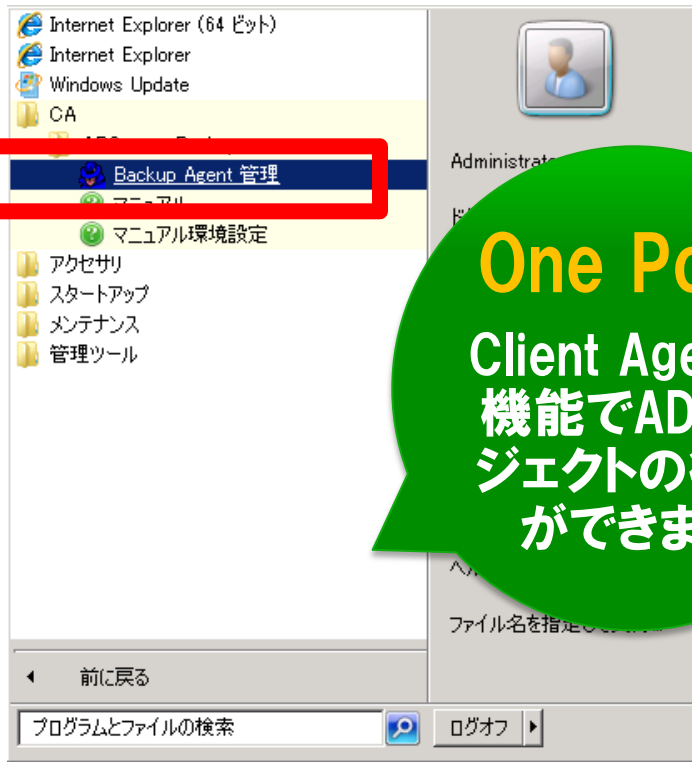
オブジェクトの一部を復旧する手順 ②

The screenshot shows the CA ARCserve Backup software interface. The 'Destination' tab is selected, and the 'Restore files to original location' checkbox is unchecked. The temporary path '%%AD1%C%tmp' is entered in the destination field. The 'Submit' button is highlighted with a red box. A green callout bubble on the right contains the text: 'One Point システム状態のリストアには数GBの空き領域が必要です'.

名前	種類	時
システム ファイル	ファイル フォルダ	6/25 18

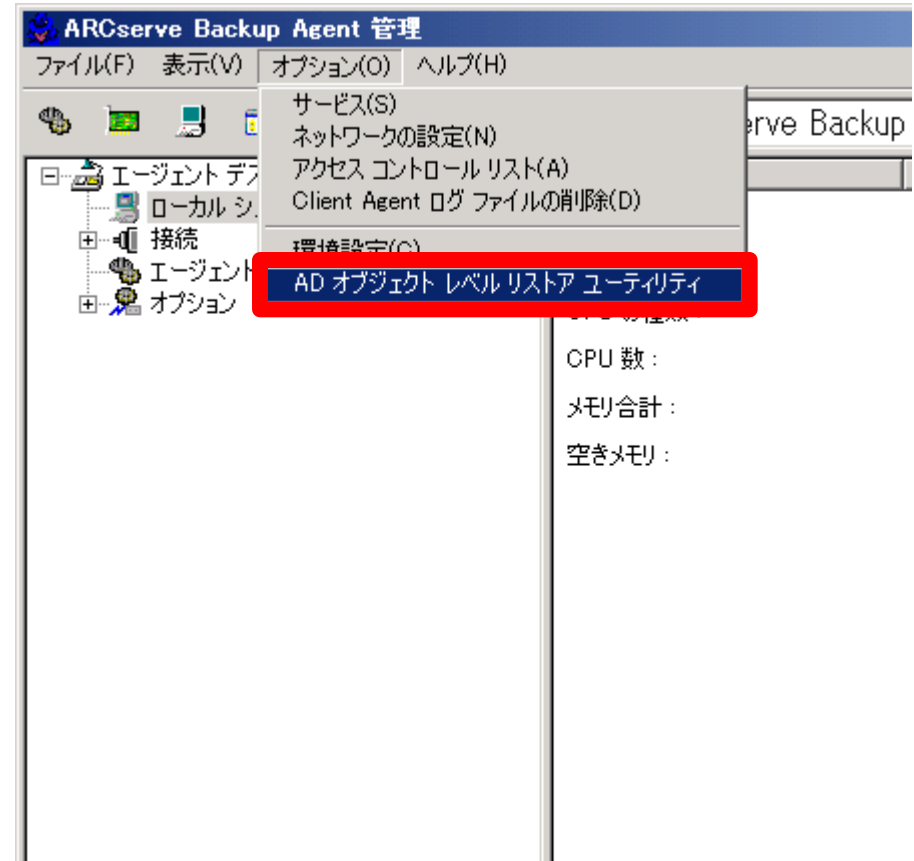
Step2: [ディスティネーション] タブを開き、[ファイルを元の場所へリストア] からチェックを外し、一時的なリストア先のパスを指定します。ジョブをサブミットし、実行します。

オブジェクトの一部を復旧する手順 ③



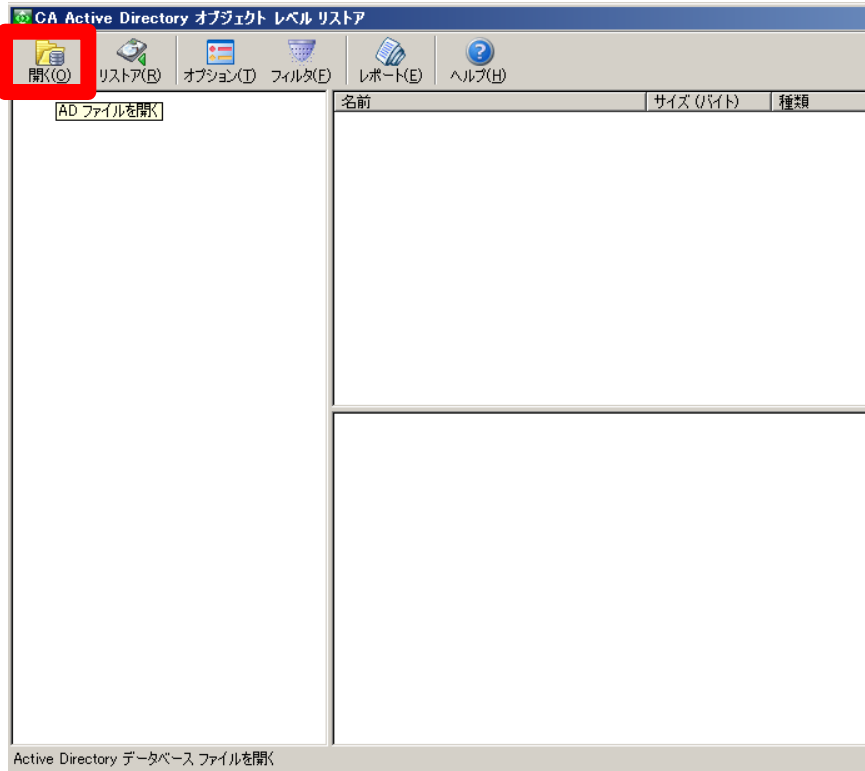
One Point
Client Agentの
機能でADオブ
ジェクトの復旧
ができます

Step3: ジョブの完了後、ドメインコントローラのスタートメニューで [Backup Agent 管理] を開きます。

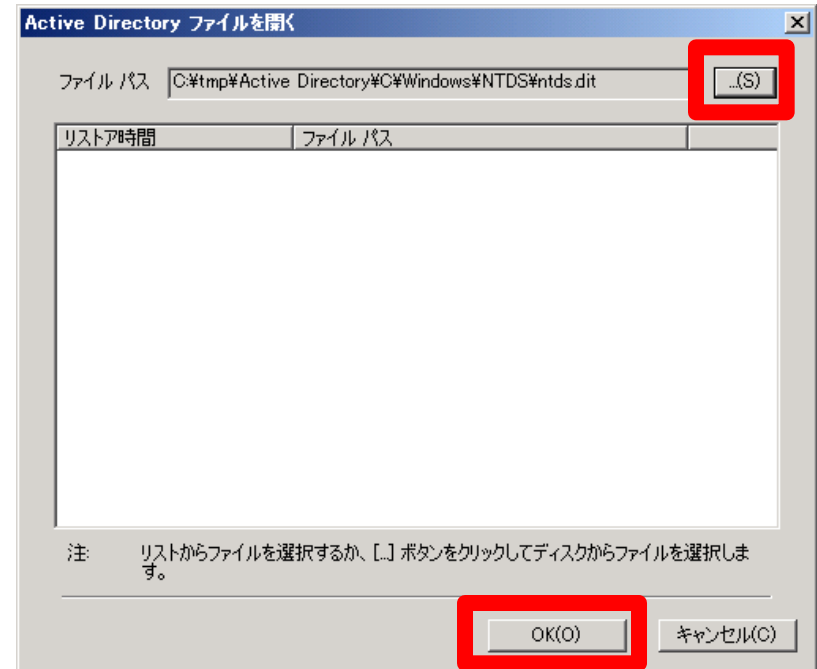


Step4: [オプション] - [AD オブジェクト レベル リストア ユーティリティ] を開きます。

オブジェクトの一部を復旧する手順 ④

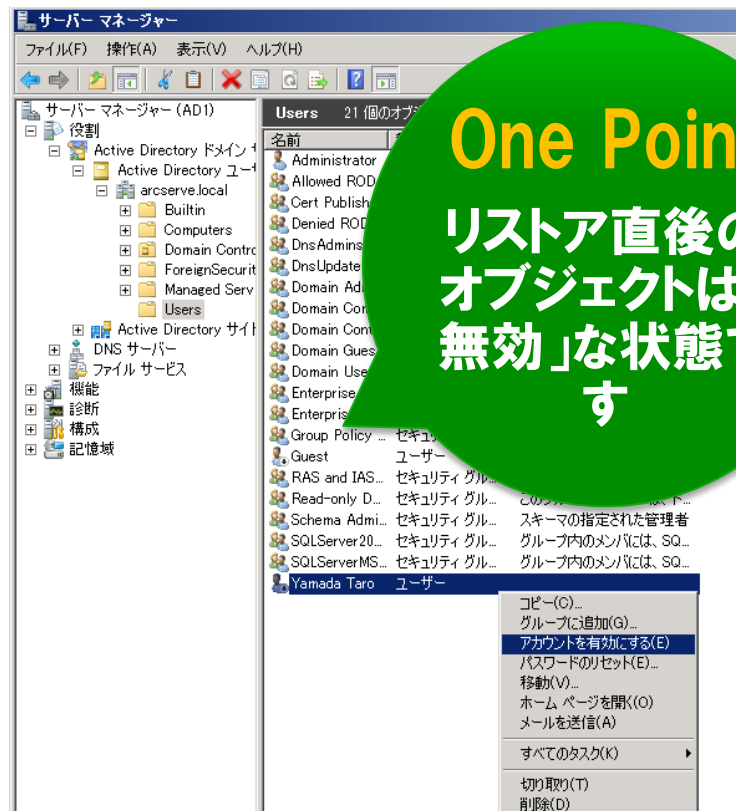
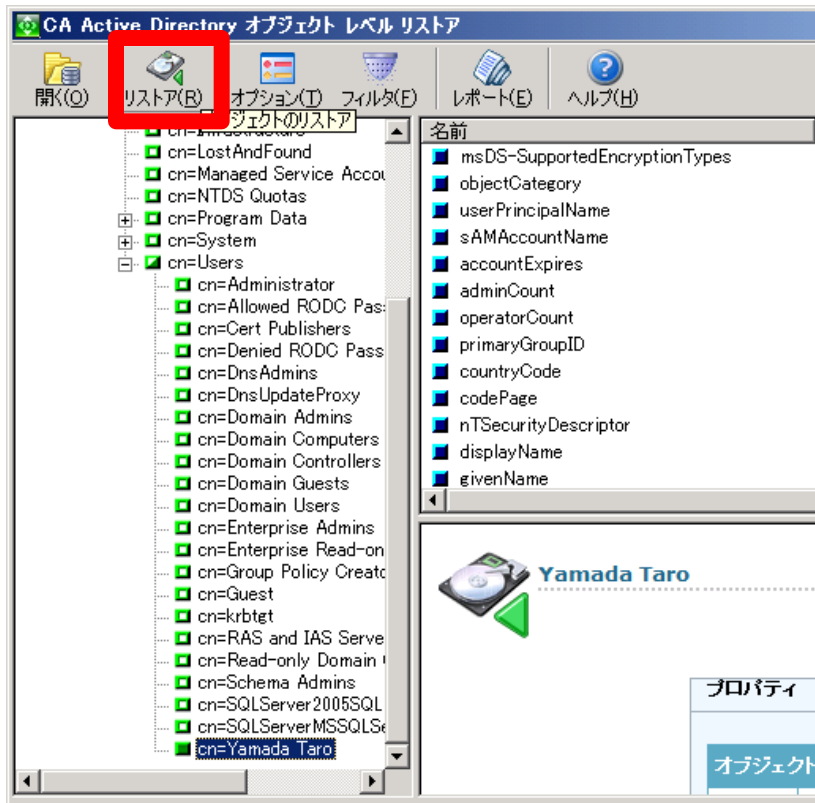


Step5: [開く] をクリックします。



Step6: [...] ボタンをクリックし、先ほどリストアしたシステム状態の中からリストアポイント (ntds.ditファイル) を選択します

オブジェクトの一部を復旧する手順 ⑤



One Point
リストア直後の
オブジェクトは「**無効**」な状態です

Step 7: オブジェクトツリーを展開し、リストアしたいオブジェクトを選択したら [リストア] ボタンをクリックします。

Step 8: リストアが完了したら、リストアしたオブジェクトを確認し有効にします。

<参考> オブジェクト レベル リストア ユーティティで復元できるもの/できないもの

オブジェクト レベル リストア ユーティティで復元できるオブジェクト

部門	ユーザ	グループ	コンピュータ
連絡先	接続	共有フォルダ	プリンタ
サイト	サイト コンテナ	サイト リンク	サイト リンク ブリッジ
サイト設定	サブネット コンテナ	信頼ドメイン	環境設定クラス
Lostandfound クラス	Builtindomain クラス	Dnszone クラス	ドメイン クラス
Domaindns クラス	Dmd クラス	組織単位クラス	Containerecifiers クラス

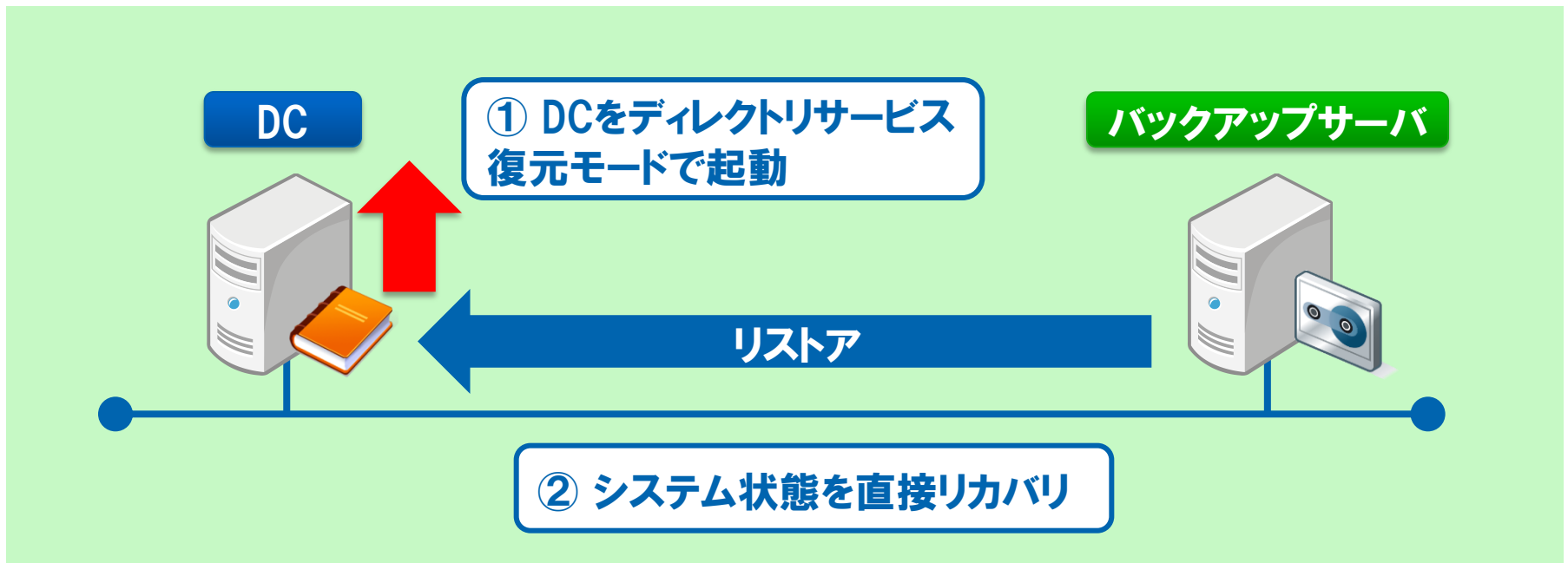
オブジェクト レベル リストア ユーティティで復元できないオブジェクト

システム スキーマ	グループ ポリシー オブジェクト(GPO)		
-----------	-----------------------	--	--

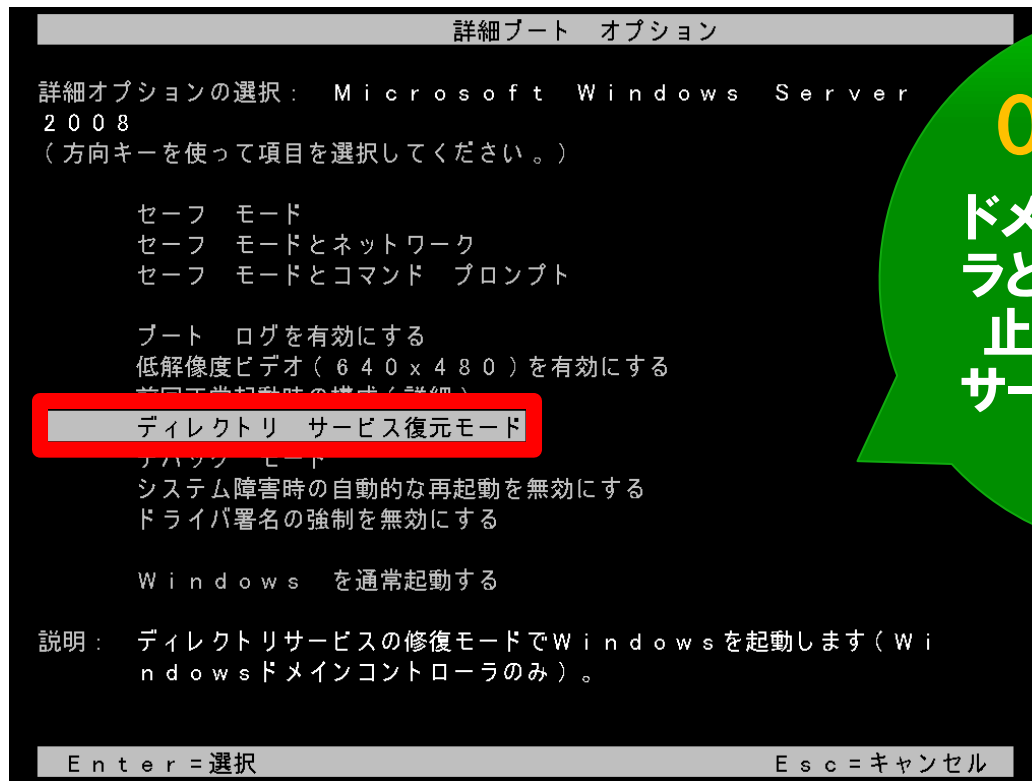
Active Directory データベースの復旧手順

誤操作でActive Directory データベースを壊してしまった！

- ▶ 破損個所が特定できなければ、Arcserve BackupでActive Directoryデータベース全体をリストア行う。



Active Directory データベースの復旧手順 ①

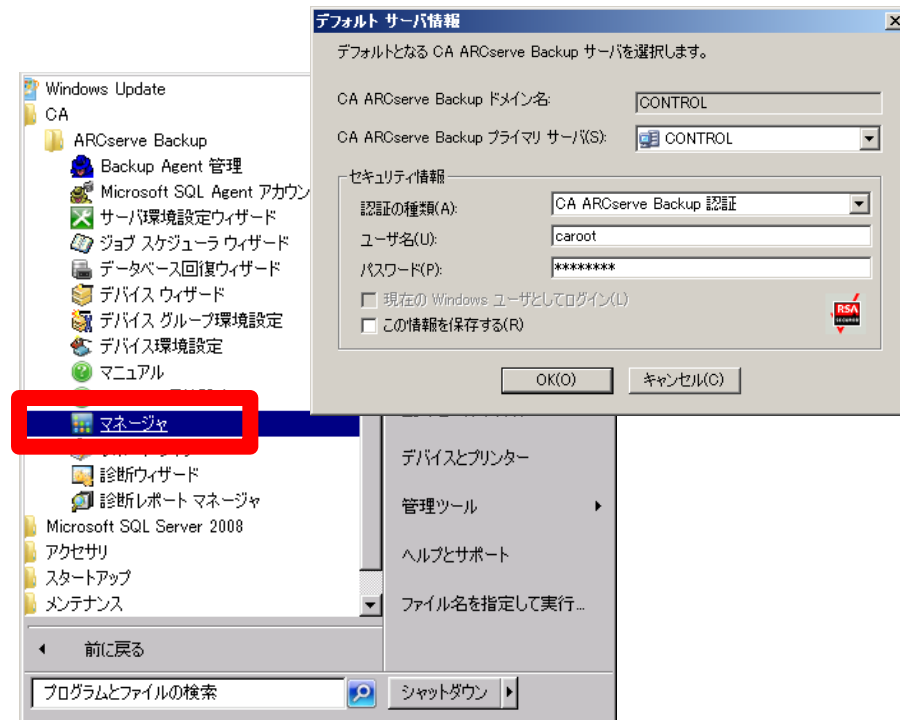
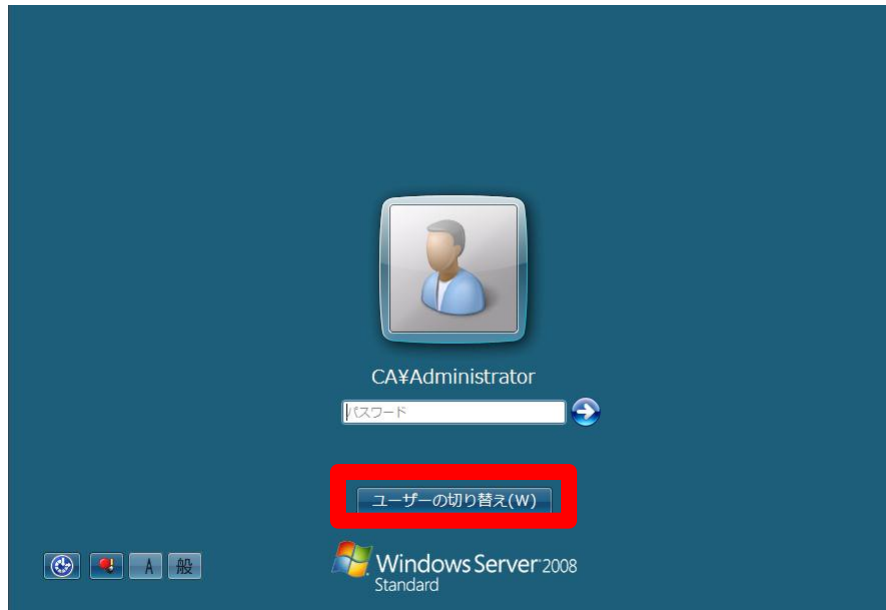


One Point

ドメインコントローラとしての機能が止まった状態でサーバを起動するモード

Step 1: ドメインコントローラサーバを再起動し、起動直後にF8キーを入力すると上のような [詳細ブート オプション] の選択画面になります。 [ディレクトリ サービス 復元モード] を選択し、Enterを入力します。

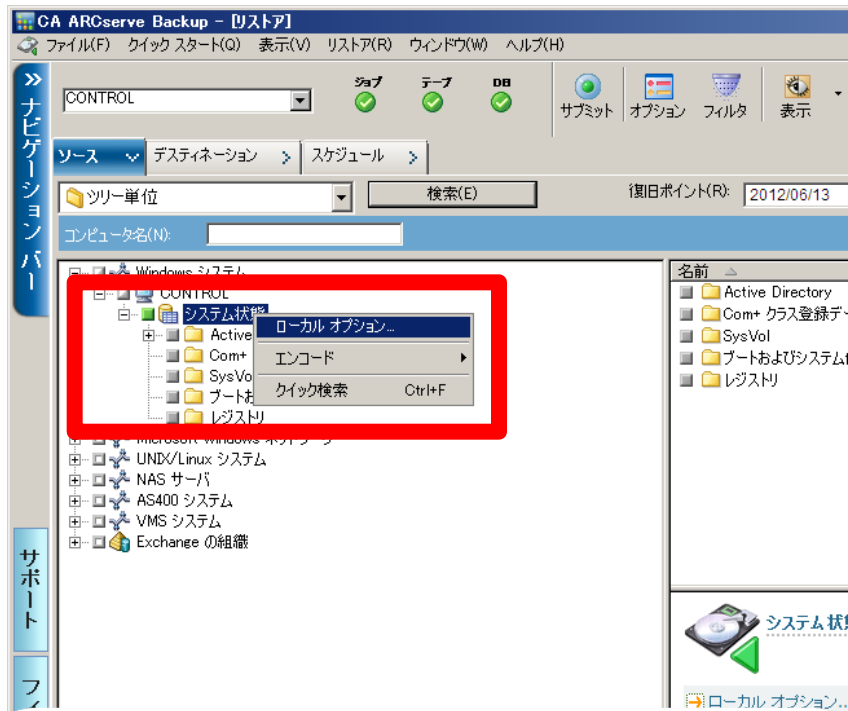
Active Directory データベースの復旧手順 ②



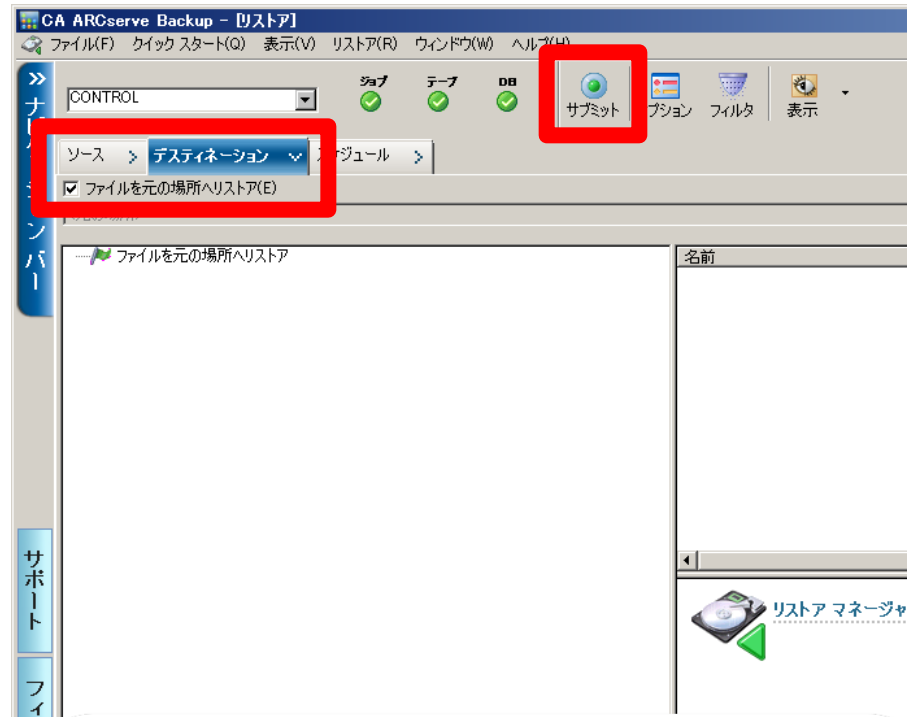
Step2: [ユーザーの切り替え]
をクリックし、ドメインコントローラ
の構築時に設定したディレクトリ
サービス 復元用のユーザで
ログインします。

**Step3: Arcserve Backup のマ
ネージャにログインします。**

Active Directory データベースの復旧手順 ③

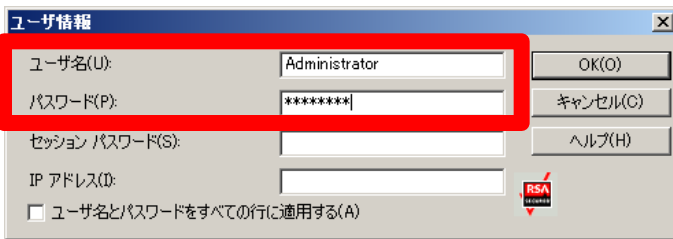
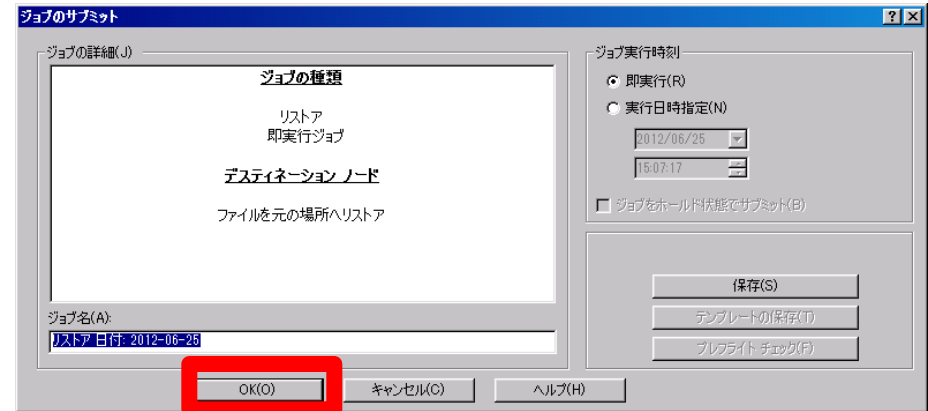
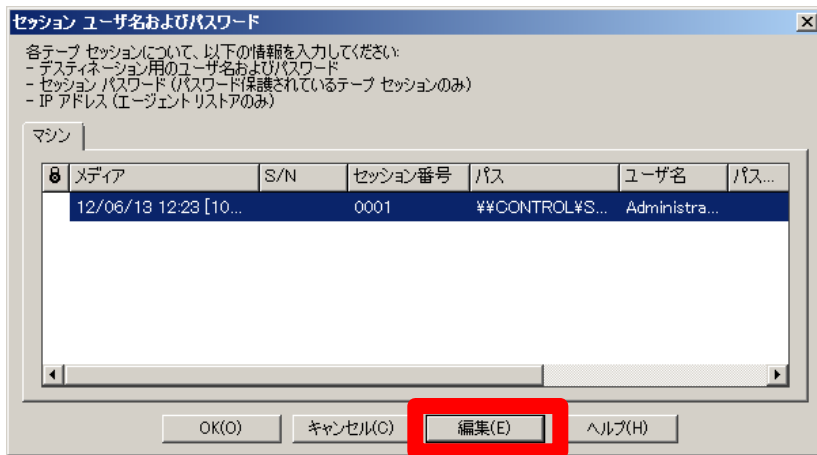


Step4: リストアマネージャを開き、リストア対象のサーバの「システム状態」にチェックを入れます。



Step5: [ディステーション] タブを開き、[ファイルを元の場所にリストア] にチェックが入っていることを確認し、ジョブをサブミットします。

Active Directory データベースの復旧手順 ④



Step6: [編集] をクリックすると、[ユーザ情報] ダイアログが開きます。ここで、ディレクトリ サービス復元用のユーザーのユーザー名/パスワードを入力します。

Step7: ジョブを実行します。

Active Directory データベースの復旧手順 ⑤

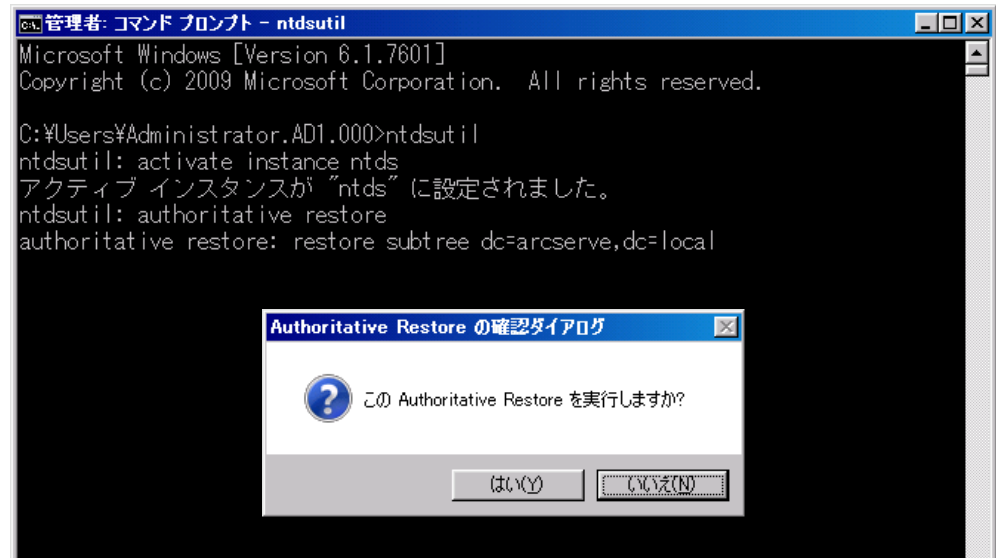
複数DCがある環境ではこのページの操作も行います。

リストアしたドメインコントローラでコマンドプロンプトを開き、以下の順にコマンドを実行します。

- 1) ntdsutil
- 2) activate instance ntds
- 3) authoritative restore
- 4) restore subtree dc=*Domain_Name*,dc=*xxx*

※ *Domain_Name* はドメインの名前、*xxx* は "com"、"org"、"net" などのドメイン コントローラの最上位ドメインの名前をそれぞれ表します。

※ ntdsutil の詳細はMicrosoft社にお問い合わせください。



```
管理: コマンド プロンプト - ntdsutil
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users¥Administrator.AD1.000>ntdsutil
ntdsutil: activate instance ntds
アクティブ インスタンスが "ntds" に設定されました。
ntdsutil: authoritative restore
authoritative restore: restore subtree dc=arcserve,dc=local
```

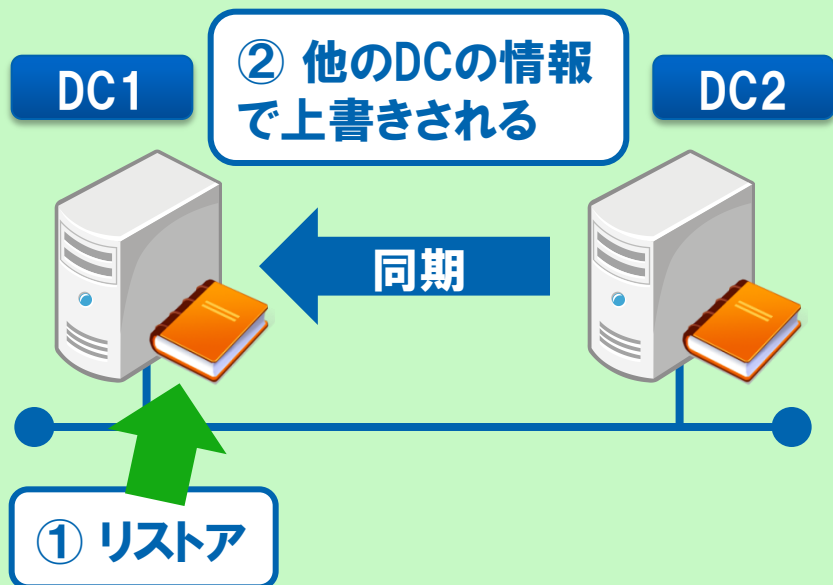
Authoritative Restore の確認ダイアログ

? この Authoritative Restore を実行しますか?

Step8: ジョブの完了後、コマンドプロンプトを開き上記のコマンドを実行します(Authoritativeリストアを行います)。その後サーバを再起動します。

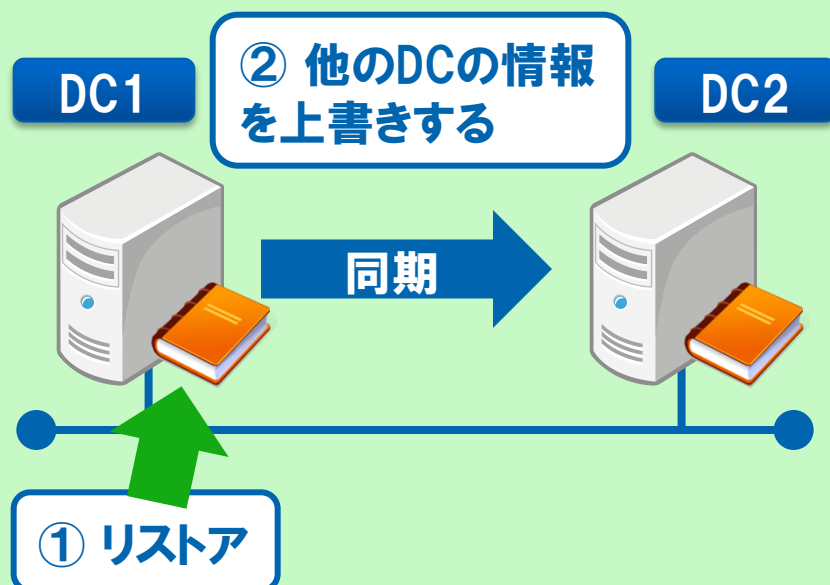
<参考> Authoritative リストアとは？

Authoritative リストアをしないと…



論理障害の復旧ができない

Authoritative リストアをすると…

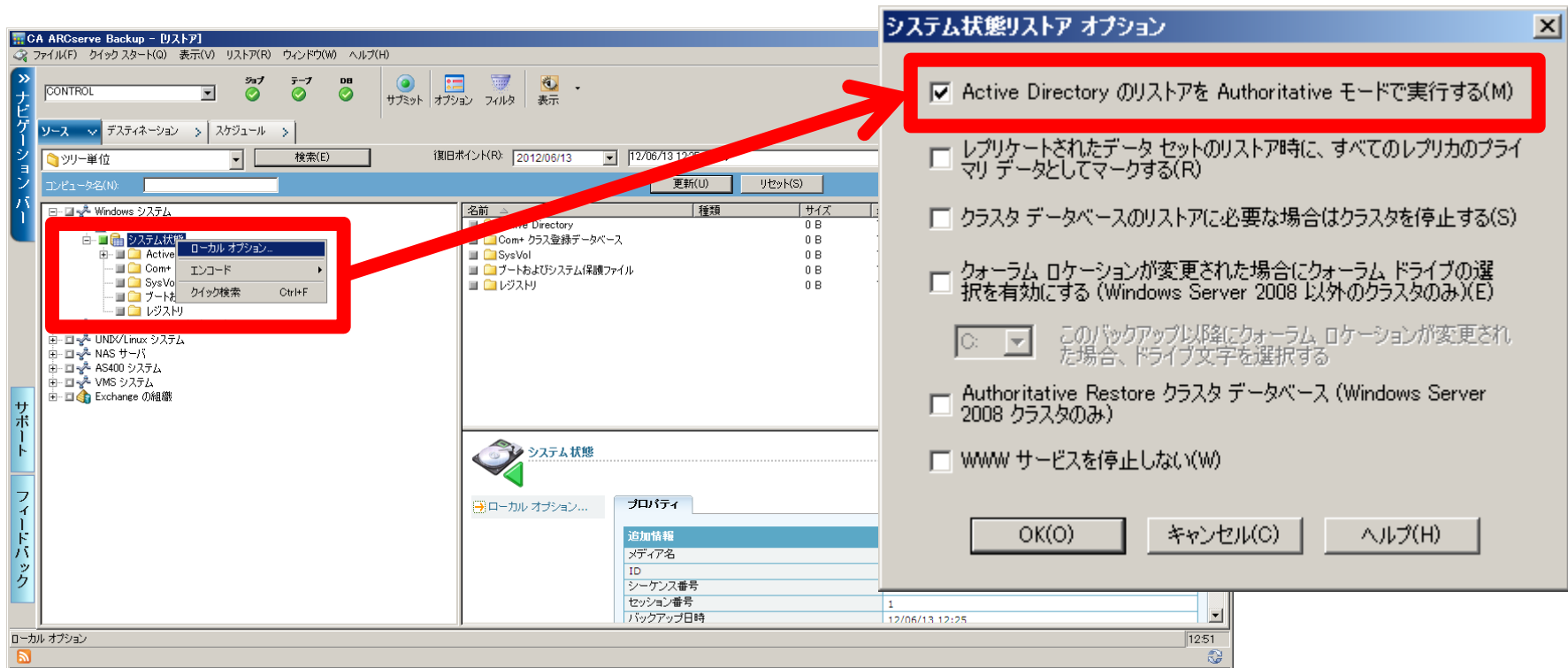


リストアした情報をAuthoritative(正式な状態)として他のDCにも反映できる。

<参考> Authoritative リストアとは？

ドメインコントローラがWindows Server 2003以前の場合

リストア前にAuthoritativeモードを有効にすれば、コマンドプロンプトでAuthoritative リストアを実行しなくてもOK！



注意点①：Arcserve Backup を使用する場合

Arcserve Backup は最新サービスパックを必ず適用してください

技術情報:Active Directory 環境でシステム状態のバックアップが正常に取得できない
<http://www.casupport.jp/resources/bab16win/tec/021012559.htm>

CSP製品・エンタープライズ製品のサポート

製品別サポート

技術情報

ダウンロード

ウィルス情報

サポート オファリング

全文検索

お問い合わせ窓口

CA サポートへ戻る



ストレージサポート製品別ページ

技術情報 > CA ARCserve Backup r16 for Windows

技術情報 > CA ARCserve Backup r15 for Windows

技術情報 > CA ARCserve Backup r12.5 for Windows

Active Directory 環境でシステム状態のバックアップが正常に取得できない

対象製品 CA ARCserve Backup r16 for Windows
CA ARCserve Backup r15 for Windows
CA ARCserve Backup r12.5 for Windows

文書番号	021012559
最終更新日	2012/05/08

プラットフォーム Windows

◆ 概要

本文書では、Active Directory 環境でシステム状態のバックアップが正常に取得できない事象について説明します。

◆ 詳細内容

Active Directory 環境にて、システム状態のバックアップが正常に取得できない事象が報告されています。

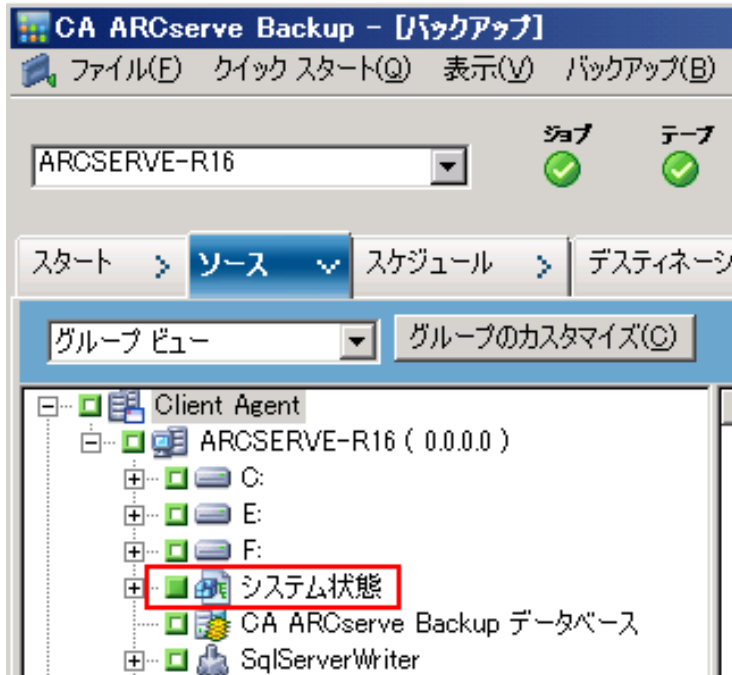
バックアップが正常に取得できない場合、以下の警告が発生します。

AW0276 Active Directory をバックアップできませんでした。RC=2、指定されたファイルが見つかりません。

AW0254 Active Directory サービスをバックアップできませんでした。RC=2

注意点②：バックアップ時の注意点

Arcserve Backup では「システム状態」を必ずバックアップしてください



バックアップジョブの作成時に
Windows サーバ配下の「システム
状態」を選択します。

※ Arcserve D2D はVSSのSystem writerを使っており、システム状態に関連するボリュームがバックアップ ソースに指定されていれば、自動的にシステム状態もバックアップされます。

注意点③：バックアップデータの有効期限

バックアップデータには有効期限(tombstoneLifetime)があります

Microsoft サポート:

Active Directory のシステム状態のバックアップの有効期間について

<http://support.microsoft.com/kb/216993/ja>

有効期限(tombstoneLifetime)の規定値

- Windows Server 2003 以前 ⇒ 60日間
- Windows Server 2003 SP1以降 ⇒ 180日間



バックアップデータが古くなりすぎないように、
ドメインコントローラのバックアップはマメに行います！

もっと詳しく知りたい方は

導入前にぜひご参加ください！ 『無償ハンズオントレーニング』

① Arcserve Backupによる仮想サーバのバックアップ

- ▶ Hyper-V環境を使い、仮想環境のバックアップに最適な「Agent for Virtual Machines」の操作を体験いただけます！

② これで安心！Windows Server 2012のシステム復旧コース

- ▶ Arcserve Backup + Disaster Recovery OptionでWindows Server 2012の簡単復旧を体験いただけます！

詳しくはWebで！

Arcserve ハンズオン

検索

Arcserve D2D

Arcserve D2Dのバックアップ設定、実行、リカバリ操作、ベアメタル復旧手順などを実際の画面を見ながら進めていただけます。
その簡単さを是非実感してください！



Arcserve Backup

「どのようにバックアップするのかがわからない」「スケジュールの設定方法は？」「仮想環境にも利用できるの？」そんな疑問に実際の画面をご覧くださいながらお答えいたします！



閲覧はこちら！

オンラインデモ

検索